

## 2015年7月期決算説明会（要旨）

2015年9月1日 10:00～  
東京証券会館

代表取締役社長 梅森 輝信

### ◆事業環境（説明会資料 スライド2,3）

経済産業省の生産動態統計によりますと、平成27年1月から平成27年6月までの上半期の生産金額は、前期比4.2%増となっています。四半期の生産金額は500億円となっており、高水準の状況が続いています。生産台数は、横ばいで推移しています。

包装機械業界の環境は、国内の設備投資需要は堅調に推移しているとともに、平成26年度の輸出高は、2年連続で過去最高を更新しています。

業界全体の平成26年度の実績は、4,000億円を越える見通しであります。

当社につきましては、販売台数が大きく増加したことから、売上高は3期連続で過去最高となりました。海外市場向けにつきましては、アジア市場向けが大きく伸びたことから、機械売上高は、前期比約3倍の13億円となりました。一方、大型案件が減少したことから、機械受注高は、過去最高の前期を大きく下回りました。また、機械受注残高も、前期から減少しました。

### ◆2015年7月期決算概況（説明会資料 スライド5～16）

売上高は、販売台数の増加などにより、5億6千万円の増収となりました。経常利益増減要因につきまして、売上増加による利益増と売上総利益率の改善による利益増に対して、販売管理費の増加がマイナス要因となり、経常利益は8千5百万円の増益となりました。期初予想に対しては、9億1千1百万円の増収、1億9百万円の増益となる結果となりました。

売上高は前期に対して増収となりましたが、3月に上方修正した計画に対しても、3億1千1百万円の増収となりました。売上総利益率は3.7ポイント改善したことから、売上総利益は、前期比3億3千7百万円の増収となりました。販売管理費は、前期比2億5千2百万円増加しましたが、経常利益は、計画を上回り、前期に対して8千5百万円の増益となりました。当期純利益も、計画を上回り、前期に対して6千4百万円の増益となりました。

品目別にご説明すると、販売台数が増加したことから、給袋自動包装機、製袋自動包装機は、前期に対して増加となりました。包装関連機器では、大型包装システムの実績が減少したことから、前期に対して減少となりました。この結果、機械売上高は前期比2億5千7百万円の増収となりました。保守消耗部品その他では、高額保守案件の実績が増加したことから、前期に対して増加となりました。なお、計画に対しても、海外向けが増加したことなどから、機械売上高、保守消耗部品ともに、計画を上回りました。

当社の四半期売上高につきましては、大型案件の有無、高価格機種の実績により、大きく変動する傾向にあります。また、販売台数についても、中小型案件の件数の増減により、ご覧の通り大きく変動しております。自社で設計・製造している機械の実績は、前期比34台増加し、売上高は、前期比6億6千万円の増収となりました。ご覧のグラフの通り、大型案件の実績などにより、第3四半期に、売上が集中しました。2016年7月期の自社機の販売台数については、横ばいの見通しであります。

売上高をエンドユーザーの業種別にみると、食品業界向けの売上高は、通期で前期比8.1%の増収となりました。2016年上期につきましては、大型案件が減少することから、前期の下期より減少する見通しです。化学関連業界向けの売上高は、医療分野向けの実績が増

加したことから、通期で前期比 31.3%の増加となりました。2016 年上期は、高額案件が増加することから、前期の下期より増加する見通しです。その他業界向けの売上高は、販売台数が減少したことから、通期で前期比 23.9%の減少となりました。2016 年上期は、前期の下期より減少する見通しです。

また、売上高を国内と海外市場別にご説明すると、国内市場向けの売上高は、大型案件の実績が減少したことから、通期で前期比 6 億 9 百万円の減少となりました。2016 年上期は、販売台数が増加することから、前期の下期より増加する見通しです。

海外市場向けの売上高は、大型案件の実績があったことから、通期で前期比 8 億 6 千 7 百万円の増加となりました。2016 年上期は、大型案件が無いことから、前期の下期より減少する見通しです。

海外市場向けの売上高について、さらに地域別でみると、アジア市場向けは、販売台数が増加したとともに、大型案件の実績もあったことから、前期より大幅に増加しました。

北米、南米市場向けは、ペットフード向けが減少したことから、前期より減少しました。

その他の地域、部品については、ご覧の表の通り、増減しております。この結果、全体の売上高は、前期より 9 億 4 百万円増加し、海外向け売上高比率は、27.1% となりました。2016 年上期については、大型案件の反動減で、アジア市場向けが大きく減少することから、全体として前期の下期より減少する見通しです。

参考までに、海外の国別の納入実績は、緑色で記載しておりますアジア地域につきましては、中国での販売台数が大きく伸びたとともに、他の国も増加したことから、合計で前期から 24 台増加し、2015 年 7 月期は、30 台の実績となりました。黄土色で記載しております、欧州と北米・南米につきましては、前期まではペットフード向けの実績が中心でありましたが、2015 年 7 月期は、種苗向けでアメリカ 1 台の実績でありました。

機械の受注動向について、機械の受注件数は、1 億円以上の大型案件の受注件数が減少したことから、全体として前期より 5 件の減少となりました。2016 年上期につきましては、大型案件についても受注を確保するとともに、受注件数の増加を目指していきます。

機械の受注高は、大型案件の受注が減少したことから、前期比 19 億 7 千 4 百万円の減少となりました。期末受注残高につきましても、前期比 9 億 2 千 4 百万円の減少となりました。なお、四半期受注高の推移につきましては、第 2 四半期と第 3 四半期が低迷しました。

高額保守案件の受注高の推移ですが、1 千万円以上の改造需要が減少したことから、受注高は、前期より 5 千 7 百万円減少しました。受注残高につきましても、前期より 9 千 1 百万円減少となっています。

販売費及び一般管理費について、研究開発費等の増加により、販売管理費は前期比 25.9%の増加となりました。2016 年 7 月期は、研究開発費が減少することから、4%減少する見込みであります。

#### ◆中期経営計画及び 2016 年月期通期業績見通し（説明会資料 スライド 18～24）

第 4 次中期経営計画は、海外市場での成長基盤構築の時期と位置づけて、ご覧の中期経営ビジョンを掲げています。中期数値目標につきましては、ご覧の表の通り、全ての項目について、第 3 次中計の最終年度である 14 年 7 月期の実績から増加させることを目標としております。

第 4 次中計の業績計画は、ご覧のグラフの通りであります。収益の安定化と拡大に注力し、経常利益で安定的に 2 億円以上を確保することを計画しております。第 1 期の 2015 年 7 月期は、当初計画では減収・減益を予想しておりましたが、先ほどまでご説明しましたように、計画を大きく上回り、増収・増益となりました。第 2 期、第 3 期の計画につきましては、当初計画から変更しておりません。

国内市場の売上高につきましては、2015年7月期の実績は、期初計画を少し下回りましたが、需要が堅調であることから、2016年7月期は、32億円を計画し、最終期で35億円まで増加させることを計画しております。海外市場の売上高につきましては、2015年7月期の実績は、大型案件の実績もあり、期初計画の6億円を大きく上回りましたが、2016年7月期は、その反動減で減収となる見通しです。最終期で10億円まで増加させることを計画しております。保守消耗部品については、2015年7月期の実績は、高額案件の増加で大きく伸びましたが、例年並みの10億円を計画しています。

2016年7月期の業績見通しにつきましては、期初の受注残高が減少しているとともに、大型案件の需要が不透明であることから、売上高は前期比4億1千1百万円の減少を見込んでいます。売上総利益については、減収により前期比1億1千4百万円の減少を見込んでいます。一方、販売管理費は、4千8百万円減少することから、最終的に、経常利益は、前期比6千9百万円の減益となる見通しです。

海外向けの大型案件が減少することから、売上高は、前期比7.6%減の50億円を見込んでいます。売上総利益率は、前期とほぼ同水準の28.6%を見込んでいます。販管費は、研究開発費などが減少することから、前期比4%減になる予定であります。この結果、経常利益率は0.9ポイント低下し、5%を見込んでいます。当期純利益は、前期比5千9百万円減の1億6千5百万円を計画しております。

品目別売上高の計画値は表の通りです。給袋自動包装機が、高額案件の増加により、前期比約4億円増加することから、製袋自動包装機は減少するものの、自社機の売上高は前期比1億1千5百万円増加する見通しです。一方、包装関連機器、保守消耗部品その他については、それぞれ前期比2億5千万円程度減少する見通しです。

最後に、株主還元についてですが、中期配当政策につきましては、配当性向50%またはDOE2%を目安に、安定配当を堅持しつつ、業績動向を見ながら、配当金の増加を目指していきたいと考えております。2016年7月期の配当予想につきましては、2016年2月1日を効力発生日として、5株につき1株の株式併合を実施することを予定していますので、これを考慮した予想数値を記載しています。従来基準ですと7円となります。2015年7月期は、上方修正に伴い9円に増配しましたが、2016年7月期は、減益予想のため、2014年7月期と実質的に同額を予定しております。

#### ◆経営戦略の主な取り組み状況（説明会資料 スライド24～32）

第4次中計の基本戦略につきましては、「持続的成長に向けてグローバル企業を目指す」であります。ご覧の図の様に、国内市場で安定的な売上高を確保しながら、海外事業を強化していく戦略であります。国内市場では、ソリューションビジネスの拡大に、海外市場では、中国・東南アジア市場の販売基盤の確立と海外市場向けの商品拡大に取り組んでいきます。また、国内市場の既存分野については、顧客関係の深化と新機種投入に取り組んでいきます。

また、基本戦略につきましては、さらに具体的な戦略を策定しております。ご覧の1番目から5番については、先のスライドでご説明した項目を具体化したものであります。これらの戦略に対する取り組みを強化していきます。さらに、事業領域拡大のために、M&Aやアライアンスを推進していきます。

また、基本戦略を実現していくための主な経営施策として、個別戦略を策定しています。ここでは、販売戦略と開発・技術戦略のみを記載しております。

販売戦略の中で、海外事業の強化につきましては、まず、海外営業部の増員による体制強化を実施しています。販売基盤の確立として、中国市場につきましては、上海に代理店と併設して駐在員事務所を開所するとともに、代理店により、当社包装機を3台展示したショー

ルームを青島に開設しました。また、上海展示会に出展するなど、中国市場の開拓を強化しています。東南アジア市場につきましては、各国の調査とアプローチにより、新規販売チャネルの開拓に取り組んでいます。欧米市場につきましては、ペットフード用包装機の拡大に取り組んでいます。海外市場の新規顧客開拓の受注実績は、ご覧の表の通りであります。

ソリューションビジネスの拡大につきましては、2014年8月に、人員を強化の上、システムソリューション部を新設しておりますが、2015年7月期の実績としては、海外で初の大型包装システムを含め、6件の大型及び高額システムの納入を完了しています。高額システムの受注実績は、ご覧の表の通りで、2015年7月期は、納入と検収の活動が中心となったこともあり、受注は3件に留まっていますが、2016年7月期は、受注活動を強化していきます。なお、高額システムの一部は、資本業務提携先のワイ・イー・データのロボット応用システムを納入しております。

開発・技術戦略の取り組み状況ですが、開発テーマとしては、メカトロモーション技術やコア技術、次世代包装機の開発、ニーズに対応した新機種の開発を推進しています。2015年7月期は、一部の開発プロジェクトで、開発費が拡大したことから、研究開発費は、計画から大幅に増加しました。開発実績と販売台数は、ご覧の表の通りであります。2015年7月期は、3機種を完成させて、3台の販売実績と1台の受注残となりました。2016年7月期は、3から4機種を完成させる計画であります。すでに開発に着手している機種で、2台の受注残があります。

研究開発費の推移につきましては、ご覧のグラフの通りであります。2015年7月期実績は、当初計画を1億4千4百万円上回り、3億9千4百万円と前期から大幅に増加しました。2016年7月期の売上高研究開発費比率は、5.3%を計画しております。

#### ◆参考情報（説明会資料 スライド34～38）

包装機械業界全体の市場規模は、2013年度は約3,900億円程度で、需要先としては、食品部門が5割程度を占めています。このため、比較的安定した業界であります。当社は、粉末・顆粒・固形物等のドライ物の包装機械・システムに特化しております。また、高品質かつ難易度の高い包装分野を得意としています。競合先としては、同じロータリー式包装機メーカーである東洋自動機、古川製作所であります。

主要市場、主要ユーザーとしては、ご覧の図の通りであります。高品質、難易度の高い包装分野をターゲットとしております。販売経路としては、6割以上が直販ですが、各業界の上位を中心に営業活動をしております。

経営ビジョンとして、One stopで応えるソリューションカンパニーを掲げていますが、図の様に包装工程以外の分野についても、ソリューション力の強化に取り組んでいます。また、人員推移は表の通りであります。開発・技術部を中心として、継続的に人材の強化を図っています。

これからも、食品や医薬品を安全・確実に包装する技術を通じて、より大きな社会的貢献を果たせるよう、一層の努力を重ねるとともに、業績の向上と企業の健全性に努めていきたいと考えております。